

# 一般質問

一般質問とは、市の一般事務や市が抱える課題等について市長などにたずねるもので、**12月定例会では20人の議員が一般質問を行いました。**ここでは広報委員会が抜粋し、事項別に整理した一部の内容を掲載しています。

一般質問の全文は、2月中旬作成予定の本会議録を図書館や鎌倉市議会ホームページ内「会議録検索システム」でご覧ください。

- 高橋 浩司……「福祉関連予算と行財政改革について」
- 吉岡 和江……「高齢者保健福祉計画について」「子育て支援について」
- 安川 健人……「防災について」「世界遺産について」
- 松中 健治……「災害・災害後について」「復旧・復興・防災」「まちづくり」
- 赤松 正博……「地震・津波・海に浮かぶ2つの原子炉事故から市民の生命と財産を守るために」
- 中澤 克之……「防災について」「子供達の環境等について」「新副市長の基本姿勢等について」
- 西岡 幸子……「女性の視点からの防災対策」
- 長嶋 竜弘……「鎌倉に大津波がきたら」「世界遺産登録について」
- 飯野 真毅……「防災対策について」「下水道行政について」「廃棄物行政について」
- 干 一……「車椅子利用の来訪者について」「3・11のようなことが鎌倉で起こった時の要援護者対策とその流れ」「北鎌倉駅のバリアフリー化及び大船駅東口のエレベーターについて」
- 納所 輝次……「地域主権改革の推進における鎌倉市総合計画のあり方について」
- 石川 敦子……「超高齢社会を乗り切る鎌倉の取り組みについて」「不登校・虐待・非行など子どもの問題解決に向けてスクールソーシャルワーカーの活用について」「特別支援教育で求められる個に応じた指導・支援について」
- 岡田 和則……「行財政改革と放射能対策と津波対策」
- 前川 綾子……「障害者の就労について」「安心・安全なまちづくりについて」
- 渡辺 隆……「鎌倉市の防災について」
- 太田 治代……「鎌倉市の危機管理」に対する取り組みについて」
- 久坂くにあ……「災害時のペット対策並びにマナー向上について」
- 山田 直人……「スポーツの振興について」「障害者就労支援について」「公共施設等の管理について」
- 高野 洋一……「住宅リフォーム助成制度の創設について」
- 渡邊昌一郎……「みんなの鎌倉遠足」に5,000万円の予算をかける諸問題について」

## 防災と市民生活の安全・安心

### 津波対策

神奈川県が発表した津波浸水予測図(素案)について、次のような質問が行われました。

質問：県が本市の津波浸水想定を14.4メートルと発表したが、この予測の精度について教えてほしい。  
防災安全部長：頻度は低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす可能性がある津波が想定されている。過去の文献において※明応地震、慶長地震等の被害状況から、最大で14.4メートルの津波を県が予測して発表したもので、まだ本市のどの地域に何メートルの津波が来るのか、津波の到達時間など細部の想定は示されていない。今後は県に科学的な根拠の説明を求めていきたい。

質問：この津波浸水想定14.4メートルをどう捉えているか。  
同部長：今回、県から津波高、浸水範囲が示され、予想を上回る想定であり、津波対策及び避難体制のさらなる充実が求められ、一層の危機意識を持って防災・減災対策を進めていきたい。  
質問：由比ヶ浜にある消防本部・鎌倉消防署、第一小学校に建設予定の子どもの会館子どもの家は大丈夫か。  
消防長：今回の県が想定したような津波が発生した場合、消防本部・鎌倉消防署は安全だとは言えず、被害が及ぶと考えている。時期は未定だが、119番や消防隊出動の指示を出す消防本部のみを移転していきたくと考えている。  
子ども会館・子どもの家は、近隣の小学校とも連携を図りながら避難訓練、避難場所を定



放射能対策  
質問：本市では7月から小学校及び保育園の給食食材の検査を民間検査機関で実施している。11月からは簡易測定も開始したが、その目的は。  
教育総務部長：7月からの検査は、精密な分析を行うため、民間検査機関に依頼している。11月に始めた簡易測定は、精密検査の補完のため、空間線量を測定する簡易測定器と食品を計測するキットを併用して週1回、1食材の測定を行っている。  
質問：検査回数や検査品目を増やすことについてどのようになっているのか。  
同部長：民間検査機関への依頼及び簡易測定回数については、週2回にするよう準備を進めている。また、検査品目を増やすことについては、食材を検査前日に仕入れる必要があり、保管場所の問題が出てくるため、対応は難しい。  
質問：簡易測定の検出限界値は暫定基準値に準拠した1ダあたり200ベクレルであるが、国はこの基準を見直し、

女性の視点からの防災対策  
女性の視点からの防災対策について、次のような質問が行われました。  
質問：本市の地域防災計画には、女性の視点がどのようになっているか。  
防災安全部長：現行の計画で子どもから障害者、高齢者、妊産婦などの災害弱者に対して、安全確保対策を定め、避難所の運営マナー等にも反映させている。  
質問：避難所運営マナー向上について、次のような質問が行われました。  
同部長：暫定規準値については、厚生労働省で現在見直し作業を行っている。本市においても、今後より厳しい基準で対応していくことになるかと考えている。  
質問：土壌処理対策について、市は処理基準を明確にし、市民の負担を軽減することが必要だと考えているが、その見解を伺いたい。  
防災安全部長：土壌処理については、国の特別措置法の施行に伴って示される方針に従って対応していきたいと考えている。  
質問：子どもたちを放射能から守るため、鎌倉独自の基準値を設けることについて、市長の考えを伺いたい。  
市長：現在、食材や土壌については国の示す基準に沿って対応しているが、市民の皆さんに安心していただくように情報を発信していきたい。

災害時のペット対策とマナー向上  
災害時のペット対策とマナー向上について、次のような質問が行われました。  
質問：市のミニ防災拠点運営マニュアルにはペットの対応が記載されているが、現場での具体的な部分まで話し合われているのか。  
防災安全部長：ペット同伴の避難者は基本的に一般の避難者とは別のエリアに滞在してもらうこととなるが、具体的な部分についてはまだ検討が進んでいない。  
質問：地域防災計画にペット対策を具体的に落とし込み、適切な動物救護の体制をつくるべきと考えているか。  
同部長：ペットは家族の一員という考えを持つ方も増えてきており、災害時においてもペットへのケアが求められてきていることから、地域防災計画改定の中で、ペット対策のあり方を議論していきたい。  
質問：ドッグランは、災害時の対策やマナー向上につながるコミュニケーションの場となると期待される。今後の方向性を伺いたい。  
環境部長：ドッグランは多方面での活用が考えられるが、他の公共施設の整備計画や財政的な状況もある中で、必要性の有無から検討を進めるべきと考えている。

**用語の解説**

※印の用語について解説します。

**明応地震、慶長地震等**  
明応地震は1498年(明応7年)に発生、津波の被害が大きく鎌倉の大仏殿まで津波が達したという史料がある(推定津波高8〜10メートル)。  
慶長地震は1605年(慶長9年)に発生、地震の揺れはあまり大きくないが津波が大きい地震(津波地震)として知られており、痕跡等の史料は乏しい。  
元禄地震は1703年(元禄16年)に発生、揺れが非常に大きく鎌倉では二の鳥居まで津波が浸入(推定津波高8メートル)。